

◇心理学シリーズ＜C.Gユング編・No. 2＞

2004.06.30



会員の皆様へ

タツノオトシゴは、「子育て支援」の世界から「地域福祉の世界へ」旅立ちます。

前回、C.G.ユングの生い立ちや、彼の家系や育った環境に纏わる部分をお話しました。

第2回目としては、S.フロイトとの関係や立脚点をもう少し掘り下げておきましょう。

ユングが医師の国家試験を受けたのは、父を亡くしてから後のことでした。母と病弱な妹を故郷に残し、就職したのはスイスのチューリッヒでした。ここは、牧師であった父の又、教授であった祖父の街でもありました。試験が終わったあと劇場に出向き、初めて聴いた音楽がビゼーの「カルメン」であったということは新しい未来へ向かって羽ばたく彼の気持ちを暗示しているようです。さらに南ドイツの伯母を訪ね、子ども時代のノスタルジアに終止符を打ったのです。この年（1900年）にフロイトの「**夢判断**」が刊行されています。博士号を取得したユングは、一目惚れであったエンマ・ラウシェンバッハ嬢と結婚し研究を深めて行きました。このころ「**情動化された心理的複合体**」が心の中に存在する事を発見しています。一般に“コンプレックス”という言葉はここから始まっていますが、ユングの概念ではそれは“**内なる魂のあらわれであり、感情のエネルギーの源泉**”でありました。その後、1907年にウイーンでS.フロイトとの初めての会見で、述べ13時間にも渡り話し合いをした事から二人の関係が始まっています。丁度、50歳を迎えたころのS.フロイトは



精神分析学会の活動を始めた頃でしたが、まだまだ世間で認められるには至っていません。そこへスイス人であり社会的にも認められているC.G.ユングが現れた事は、S.フロイトにとっては頼もしい存在でした。精神分析運動のために、C.G.ユングは精力的な行動を起こしています。

この出会いは「私」と「うさお氏」の初対面の時に似ています。新入生研修の初日に「うさお氏」の部屋で朝まで話し込んだのは30数年前の事でした。第一印象は「いやに理屈っぽい話をする、おかしい人種の一人」でしたが、私の興味をそそるように「音の話」をしていました。聞けば技術研究所の音響部門で仕事をする予定とのこと、正直、ジェラシーを感じました。(私は音響関係の研究所を諦め、建設業の設計に入社しました)

前回、花の咲いていない樹を掲載したのは、桜の木が持っている怨念や歓喜のエネルギーを表現したかったからなので〜す(ここで、季節はずれの桜の花でも見学して下さい)

ところで、皆さんは「妄想」と「幻覚」、「錯覚」などの意味を理解していますか？

「幻覚」と「錯覚」は分かり易いと思います。みんなが見えていないのに「ほら、そこに虫が…!」というのが幻覚、「あれ〜ッ!ここに置いたのに無くなってる!」というのは錯覚。

しかし「妄想」はなかなか理解し難い分野です。精神病者の妄想は、「病気だから」と

いう理由で片付けられてしまいがちですが、ユングは臨床面から興味を持ち観察を続けました。そして患者達の“理解しがたい言葉”の中から、ある共通点を見出しています。その一つが「神話的な世界」で、古代からの神話と同じような内容を語る患者群を見出しています。歴史をひも解いてみると宗教家や数学者、哲学者や芸術家(画家・文学者・音楽家など)場合によっては政治家などの一部に病的な言動や理解を超えた世界を垣間見る事が出来ます。哲学分野では早い段階から「人間の意識の下に何かある!」という考え方からアプローチが行われています。さらにフランスのピエール・ジャネは、フロイトより早い時期に「下意識:スー・コンシアン」という考え方を発表しています。フロイトはタイミング良く諸説をまとめ上げ「無意識」の概念を結晶化させる事で精神医学や心理学の発展に寄与しました。天才型の学者はこの辺の動きが俊敏で、涙を飲んだ諸学者は周辺に何十人も居ます。C.G.ユングの無意識の世界では、“個人的無意識”と“普遍的無意識”というものが内在し人間の心の中には**根源的な宗教性**が存在するとしています。又「アイデアが閃く」ということも、自分自身の中に秘められたものが無意識領域から湧き出るものであり、決して外から来るものではないと云っています(何となく納得、自信が湧いてきますよね!)桜の木の下には数えきれないほどの死骸が埋まっており、その吸上げる力が強いほど綺麗な花を咲かせるのでしょうか。するとS.フロイトは桜の樹だったということなのでは?(>><<)



フロイトとの出会いから6年後（1913年）には二人は決別し、フロイトは1920年代には精神分析学を完成させています。一方のユングは精神的な危機にまで落込み、「魂の彷徨」の7年間を過し1921年に「タイプ論」を発表、その後40年間著作活動に没頭しています。ユングは古い宗教書や古事記、ギリシャ神話や日本やインドの固有の神話にも、人間の無意識の根源に共通しているものを「元型＝アルヒェテュープス」と名づけ発表しています。代表的なものとしては“シャドウ”とよばれる**影の元型**、“アニマ・アニムス”とよばれる**異性の元型**、“グレート・マザー”とよばれる母の元型、“オールド・ワイズ・マン”とよばれる**父の元型**、そして夜の世界を司り、意識と無意識の世界を調和させる“セルフ”とよばれる**もう一人の自分（自己）**です。このような対比概念と関連して、ユングは「ペルソナ」という概念も取り入れています。「ペルソナ＝仮面」という世界は、まさに現代社会における事件や現象を説明するには分りやすい概念です。本来の自分と仮面の自分、どちらが本当の自分かが分り難くなり、肩書きや評価されている自分が本当の自分だと錯覚してしまう、又は動きが取れなくなってしまう事が、医者や教師、宗教家や政治家にいかに多いか！日本や古代ギリシャの演劇は、仮面を付ける事によりその下に潜む人間の心を引出す為の計算された演出手法だったのです（今まで、この関係には気付きませんでした…）

古代、政治や宗教に関する人事の世界では夢は「お告げ」の世界として頻繁に出てきます。



これは世界共通の事で、政治の方向を決する時に占い師が力を発揮します。これは、ある種の情報操作です。中世から近代社会になると夢は日常生活の延長であり、全く意味を持たないものとして片付けられたのです。まさに「夢は死

んだ：ニーチェ」のです。この夢に再び光（夢？）を与えたのがフロイトです。「夢は無意識への王道である：フロイト」人間の心のバランスが崩れた時に、隠された自分が出現します。特に児童の心理では大人からは想像も出来ない深いものが潜んでいるようです。児童心理学の分野はまだ臨床例が少なく、事例研究も十分ではありません。今回は、曼荼羅の世界と関連付けて、児童の世界のあたりも覗いて見ましょう。

では、お待ちかねの付録ページ「夢を解く辞典」を自分自身に絡めて…

“ねずみ”：小さいけれど危険な動物、中国やエジプトでは凶事をもたらす悪い神の化身である。中世では悪魔となって現われたこともある。う～ん！私の干支だけれど…

確かに悪魔の絵は何処かネズミに似ている？ついでに「うさお」も調べておこうかな…

“うさぎ” 日本や中国では、兎は月に住んでいます。未来を告げる動物で、ドイツやギリシャでは女神の使者、エジプトの象形文字では、ウサギは基本的な存在を意味し、人間に文化をもたらすこの世界の創造主で豊饒、出産などに関連。夢の中のウサギは女性の問題や未来の予知に関連。新しい冒険では「不思議の国のアリス」と時計を連想…

“猫” エジプトでは女神の使者、結婚の守護神。黒猫には幸福をもたらすとする俗信と、死や暗さに関係するの双方有り。化け猫も世界共通で、「長靴をはいた猫」は魔術的な感じがあります。それならば「ライ隊員」の事も調べてあげなくては(^-^)

“犬” エジプトでは女神ソティスと同一視され、大地の豊かさの象徴、さらに安産のお守りでもある（タツノオトシゴと共通点あり、良かったね！）反面、死や無意識の象徴としての暗い面も持つ。地獄の門には3つ頭のケロペロスという番犬が見張っている。そう云われればフランダースの犬にも、忠犬ハチ公にも暗い死の影が…「三途の川」

“川を渡る” 新しい視野や、重大な決心をする時によく現われる。ex.ルビコン河などが…川には橋がつき物で、危ない吊り橋を渡る夢では途中で切れて落ちるかも？

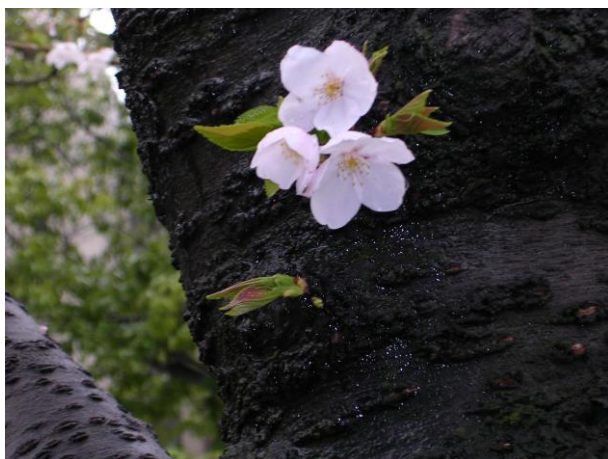
“空を飛ぶ” 現実の生活があまりに厳しいと、空を飛ぶ夢を見る事も、知らない分野を開拓する時にも見ることもあり、「少年イカロス」のように驕りや高貴な魂も表している。落ちて死なない人もあれば、空を飛べる人もいます。出来れば、飛べたいのだ！

“木” 一般に木は、生命、成長、中心、保護、豊饒などを表す。天と地、男性と女性を結ぶシンボルであり、運命が上昇する梯子の意味を持つ。霊的なものとの交流のシンボル。

「ジャックと豆の木」がその典型です。トーテムポールにも、クリスマスツリーにも共通点があります。（ユングは、日本の神話も勉強していたらしい…）

“ばら” 神秘的な中心、心、心臓を表し、何かが完成することを象徴。白は女性原理、赤は男性原理、青いバラは“不可能”を示し、黄金のバラは“究極の達成”を表す。

色によってメッセージが違うところに注目、バラ戦争（ジェンダー）は奥が深そうです。



“血” は情熱、犠牲、循環、などを示す。流された血は、危機が去り全てが終わったという始源の象徴であり、争い、狂気、短気や非合理的なものを表すことも…古傷が！…

「美しい女性には刺があるのよ！」と教えてくれた中学の同級生、ちょっと懐かしく思い出しました(--;)

……以下、次号に続く……